

周参見駅前津波避難タワー



建設内容

所在地	すさみ町周参見4289-1
構造	鉄骨構造
施設規模	避難ステージ約100㎡
収容人数	約200人
事業費	114,384.6千円
完成日	平成27年8月31日

・津波避難タワーとは

津波による被害が想定される地域の中でも、地震発生から津波到達までの時間的猶予や条件等の理由により、近くの安全な高台等へ避難が困難と想定される地域において、緊急的に一時避難をする場所として活用する施設です。

・建設までの経緯

すさみ町は、昭和21年12月21日に発生した昭和南海地震に伴う津波の来襲により大きな被害を受けた経緯があります。

・平成22年12月 周参見駅横に津波避難タワーを建設

面積	57㎡
高さ	3.5m
収容人数	約100人

・平成23年3月東日本大震災が起こる

・平成24年8月 内閣府が南海トラフ巨大地震による津波想定を公表

(すさみ町)	最大津波高	20m	
	最短到達時間	津波高1m	4分
		津波高3m	5分

・平成25年3月 和歌山県が南海トラフ巨大地震による津波想定を公表

(すさみ町)	最大津波高	19m	
	最短到達時間	津波高1m	3分
		津波高3m	4分
	平均浸水深	5.6m	

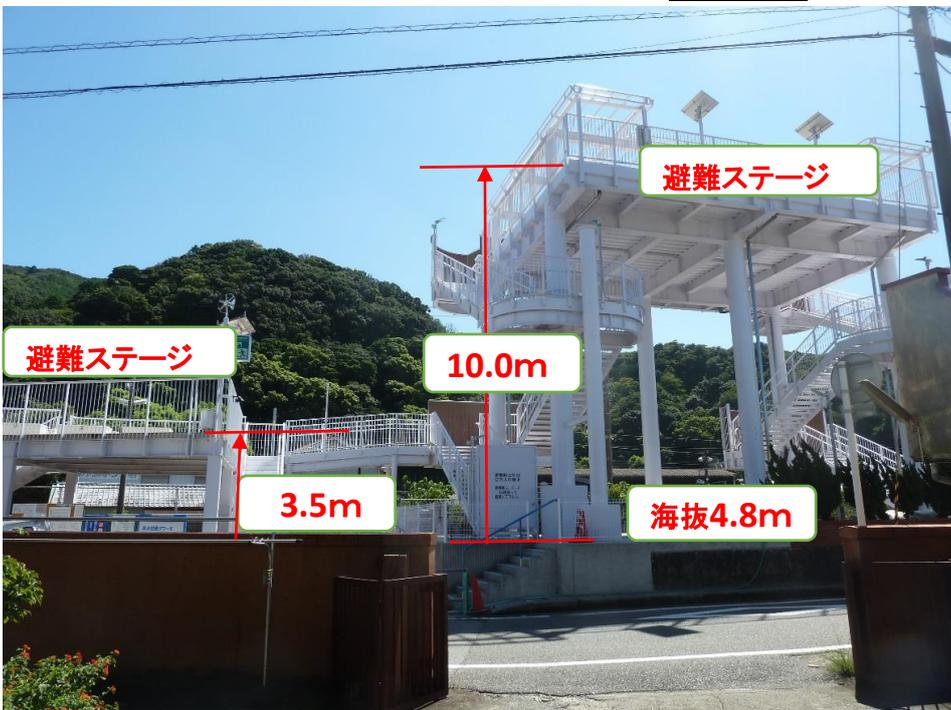
津波避難タワー建設地付近の想定最大浸水深 6.5m

・平成26年 既存タワーの横に新規建設計画

・平成27年 既存タワーの横に新規建設

・避難ステージ

避難ステージは予測最大津波浸水深から3m以上の高さに位置しています。



・避難進入路



既存のタワーに2箇所、新タワーに2箇所設置しており、扉は施錠していますが、非常時には扉のパネル(珪酸カルシウム板)を破って進入して下さい。(既存タワーから通路を通過して、新タワーの階段に連結しています。)